

日本医学会だより

JAMS News

2011年10月 No.46
日本医学会

◆第28回日本医学会総会特別企画

第28回日本医学会総会は本年3月の東日本大震災の影響により開催形態の変更を余儀なくされたが、9月17日～18日、特別企画として東京国際展示場にて学術講演会が開催された。

放射線医療、震災後の地域社会と医療、医療と情報、「医の現在」から「医の未来」への4課題についてのシンポジウム他、記念講演2題、セミナー1題、講演20題が行われた。

◆第141回日本医学会シンポジウム

「がん分子標的治療の進歩」をテーマに、12月8日(木)13:00～17:00、日本医師会館大講堂において開催する。組織委員は、前原喜彦、野田哲生、田村和夫の各氏。郵便はがき、FAX、本会HP (<http://jams.med.or.jp/>)にて申込み受付中。参加費無料。プログラムは日本医学会HPをご参照いただきたい。

◆医学賞・医学研究奨励賞の決定

選考委員会を9月7日に開催し、平成23年度の日本医師会医学賞・医学研究奨励賞の授賞が決定した。

本選考は、日本医師会から日本医学会に委任されており、今年度の推薦数：医学賞23、奨励賞38を審査した。

選考の結果、11月1日の日本医師会設立記念医学大会において、今年度の医学賞は3名、奨励賞は15名に授与される。

選考の結果は下記のとおり。

〈日本医師会医学賞〉

- ・マウスモデルを用いた大腸がんの研究/武藤誠(京大・遺伝薬理学)
- ・わが国から胃癌を撲滅するための具体的戦略/浅香正博(北大・がん予防内科学)
- ・超高齢社会における新しい運動器学の構築とその病態解明、および先端的評価法・治療法の開発/中村耕三(国立障害者リハビリテーションセンター)

〈日本医師会医学研究奨励賞〉

- ・膵β細胞の分泌準備分子機構の可視化解析：神経終末との対比/高橋倫子(東大疾患生命工学センター・構造生理学)
- ・新規生体分子イメージングによる慢性炎症を基盤とする生活習慣病病態の解明/西村智(東大・循環器内科学)
- ・ヒト体細胞から直接ヒト心筋細胞を作成するリプログラミング技術の開発/家田真樹(慶大・循環器内科学)
- ・肺がん原因遺伝子EML4-ALKの発見と臨床応用/曾田学(自治医大・ゲノム機能研究部)
- ・自然免疫系におけるウイルス認識機構に着目した新たな感染防御へのアプローチ/高岡晃教(北大遺制研・分子生体防御分野)
- ・筋萎縮性側索硬化症の原因遺伝子Optineurinのモデルマウスの作製・評価/丸山博文(広大原爆放医研・分子疫学)
- ・消化器癌幹細胞におけるCD44を介したROS制御機構の解明と治療への応用/石本崇

胤 (熊本大・消化器外科学)

- ・通信情報技術を活用し構築した緑内障診療支援システムの課題と有用性の証明/柏木賢治 (山梨大・地域医療学)
- ・長寿・老化モデルマウスを用いた慢性炎症機構の解明/南野 徹 (千葉大・循環病態医科学)
- ・脳梗塞に対する血管保護療法の確立に関する研究/下畑享良 (新潟大脳研・神経内科学)
- ・消化器癌細胞全ゲノム解析による再発転移機構の解明/三森功士 (九大別府病院・外科学)
- ・凍結免疫療法を併用した新しい脊椎転移がん手術の開発/村上英樹 (金沢大・機能再建学)
- ・卵巣癌の分子生物学的特性を利用した新規治療法の開発/中山健太郎 (鳥根大・産科婦人科学)
- ・尿路結石の形成機序における環境要因と遺伝要因からみた病態解明/安井孝周 (名市大・腎・泌尿器科学)
- ・ヒトパピローマウイルスを指標とした原発不明癌頸部リンパ節転移の個別化治療/猪原秀典 (阪大・耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

◇日本医学会法人化準備委員会

日本医学会の法人化準備に向けて、本年度新設された委員会、委員は富野康日己(委員長)、里見 進(副委員長)、池田康夫、岡山博人、松木則夫、野田哲生、福永龍繁、小林廉毅、福永慶隆、堀内行雄、岩下光利、山田芳嗣の12名で構成されている。第1回委員会は9月13日(火)に開催された。

◇日本医学会分科会利益相反会議

「産学連携における医学研究とCOIマネジメントの在り方」をシンポジウムテーマとした第2回日本医学会分科会利益相反会議を曾根三郎日本医学会臨床部会利益相反委員会委員長の総合司会の下、11月16日(水)13:00~16:20、日本医師会館小講堂にて開催する。参加希望者は、郵便はがき、FAX、本会ホームページ

(<http://jams.med.or.jp/>)にて、申し込またい。参加費無料。

当日は総会に引き続き、「国際的なCOIマネジメントの現状と動向」(J. Patrick Barron 東京医科大学国際医学情報学主任教授)、「医科系大学におけるCOIマネジメントの現状と問題点」(玉木俊晃 国立大学医学部長会議研究倫理に関する小委員会委員長)、「学会におけるCOIマネジメントの現状と問題点」(高後 裕 旭川医科大学消化器・血液腫瘍制御内科学教授)、「製薬企業におけるCOIマネジメントへの取り組み」(花輪正明 日本製薬工業協会医薬品評価委員会副委員長)、「医学研究における産学連携と国民の理解」浅井文和 (朝日新聞社編集委員)のそれぞれの講演が行われる予定。

◇移植関係学会合同委員会

第30回移植関係学会合同委員会が平成23年9月6日、厚生労働省で開催された。

小腸移植実施施設については、旭川医科大学病院、自治医科大学附属病院、国立成育医療研究センター、熊本大学医学部附属病院の4施設が追加認定された。

肝臓移植実施施設については、岩手医科大学附属病院が追加認定された。

心肺同時移植実施施設については、東北大学病院が追加認定された。

腎臓移植のレシピエント登録は、「透析導入後またはそれに準ずる者」とされてきたが、透析導入前の腎不全患者にも適応を拡大することとした。

肝臓移植レシピエント適応基準については、「劇症肝炎」「肝移植後肝不全」および「非代償性肝硬変」の重傷度の評価基準などを変更した。

心臓移植レシピエント適応基準では、「60歳未満が望ましい」となっていたが、「65歳未満が望ましい」へ変更することが発議され、臓器移植委員会における、心臓移植希望者選択基準に係る検討の結果を踏まえて、施行されることとなった。